（一）　第六十一號　金曜日　京城日日新聞　大正九年九月三日

年中無休刊
京城日日新聞

殖民地概説（七）

拓殖局編

第六章　殖民地の産業

第一節　農業

二　蒙古　蒙古人は由来牧畜を業とし耕作に従事する者稀なりと雖も是れ土地農作に適せざるに非ず畢竟耕作の智識無きに依れり、此の故に前清時代より漢人種の移住に依り従来の放牧地は漸次開墾せられて肥沃の良田と化せるもの尠からず、現在に於ける耕地面積の概算は大約我が九百六十萬町歩にして主要農作物は粟二百六十萬石、大豆百九十萬石、高粱三百三十萬石、小麦六十四萬石、大麦四十萬石、裸麦三十二萬石を産せり、而して大正四年日支條約に依り邦人は東蒙の地に於て日支合辦に依り農業及附近工業の經營を爲し得るの利權を獲得したるを以て蒙古資源の開拓を企圖するは國運の發展上極めて緊要の事なりとす。

第二節　林業

一　朝鮮　朝鮮は林野面積約千六百萬町歩に達し全土の七割三分を占め世界屈指の山國なるに拘らず古来林政備はらず濫伐に次ぐに濫伐を以てし濫りに山地を墾し毫も意を植樹造林のことに留めざりしを以て人煙稀少なる鴨緑、豆満兩江の上流及陵墓の林地を除きては到る處禿山赭野と化し林野の荒廢其の極に達し延いて國土の保安を害し旱魃頻發し産業の發達を妨ぐるに至れり、爰に於てか韓國政府は明治四十一年二月新に森林法を發布し林野の整理保護を圖り植樹造林の事業を奬勵したりしが其の效果擧らざるを以て明治四十四年六月朝鮮總督府は半島の民情に鑑み從來の森林法を廢して更に森林令を公布し國土保安上必要なる個所を保安林に編入すると共に一面造林貸付の特典を以て愛林思想の涵養、造林の促進を企圖せり、而して大正七年現在に依るに林野面積の内約三分の一は成林地にして殘地三分の二は天然稚樹の生育地及草生地禿地なり、又總面積中七百七十萬町歩は國有に屬し八百十八萬町歩は私有に屬せり、國有林野の保護に就ては之が保護規則を制定し要存林野には夫々保護區を設定し山林監守を配置し保護區設定以外の林野に對しては一般警察官吏及地元住民をして之が保護取締の任に當らしむ、又私有林野に就ては各道に於て夫々適合を設して其の取締を勵行せしむ、斯くの如く保護の施設稍備はり今日に於ては林相年を逐ふて整ふの好況を示すに至れり。

[illegible] 地に於て盛に之が經營を爲すに至れり、就中東洋拓殖株式會社、釜山學校組合、三井合名會社、朝鮮貴族林業組合、藤田組、川崎農場等に於ては大規模の造林を行ひ又内鮮人官民の造林計畫を立つるもの漸次多きを加へ其の他愛林思想の涵養及造林事業の奬勵に努力しつゝあり、而して大正七年三月末に於ける既設造林地は國費經營に係るもの二千八百三十四町歩（一千三百三十五萬九千本）、地方費經營に係るもの二千三百四十町歩（九百萬八千本）私營に屬するもの三萬五千三百八十七町歩（一億五百五十萬本餘）を算し、クヌギ、アカマツ、ニセアカシヤ、カラマツ、ヤマハノキ、クロマツ、白楊樹等を植栽せり。

原内閣の命數

某勅選議員談

原首相が折角の居据り策も今は全く其の窮策を告白したる結果となり却つて原内閣の餘命は最早到底永續さるべきものに非ずとの觀測を濃からしむるに至れるが吾輩の見る所を以てすれば原氏の爲に謀るときは政局疑察して既に民望を失へる現内閣は此際速かに引退するを以て却つて他日再起の餘地を遺すの利ありと雖も、然も之を [illegible] りとするに於ては之が編成至難に非ずと雖も明後大正十一年度の豫算に在りては玆に其の理由を細説せざるも、原内閣の手を以てしては斷じて之が編成を了し難き理由の存するものあればなり、然れば假りに原氏は此際

居据り

を決して [illegible] を期したりとするも然も僅に [illegible] 年間の餘命を保ち得るに過ぎず、[illegible] 今後一年を出づる能はざるものなれば彼の原内閣五年計畫などの如き亦一顧に値するものにあらず要するに原内閣が今のときに於て尚其私心の爲に政權擁護を企つるに於ては [illegible]

政權慾 [illegible]

壽命を保持し得べき乎と云ふに [illegible]

難治を [illegible]

河村警保局長の朝鮮視察所感に就て

河村警保局長は朝鮮警察事情視察の目的を以て目下京城天眞樓に在中なるが記者は其の視察所感を聽くべく旅館を問へば氏は快く迎へて語つて曰く
「近來朝鮮人等が不穩の状勢を示す由なるが余は之に就き其の眞相を視察すべく來鮮せり、而して各方面より觀察する所に依つて一言朝鮮人及在留内地人に望みたき事あり
朝鮮人等が此の際に於て彼れ是れ不穩の行動に出づる事は、彼等自身としても又國家の爲めにも甚だしき損失にして諸文新聞紙などを以て濫りに煽動的言論を公表し [illegible]
今日の状勢より見れば、全世界に亘りて思想の動搖を釀成し、種々なる過激的主義者を出し、歐洲大戰後に於ける一時的變態にして、之が思潮は眞に時代思想的の所産なるものに非ず、故に斯る思潮が人類の文化的發展の將來に容るゝに容れ得るべきに非ざるは無論なるを以て安定を得るに朝鮮人等は此の世界の大勢を知らずして、獨立運動の成功を夢み不穩の行動をなすは大なる [illegible]
[illegible]

地獄の幸福

創作　邦枝完二

[illegible]



内外電報

伊國過激派騷擾

カサブル（伊太利）に於ける社會黨大會に於て過激派は騷擾を惹起し爲に議長一名と社會主義者一名死亡せり[illegible]（巴里來電）

自國佛白同盟歡迎

ジュルナル紙はアラッセルよりの報道を引用して曰く白耳義内閣は佛國同盟條約を全部一致にて可決せりと（巴里來電）

移民問題解決企圖

排日問題に關し米國を熟知せるコルビー氏は加州に於ける此問題に關し顧問なる解決法を見出し得可しとの希望を有せるは移民問題に直接關係ある當局の意見に依るものにしてコルビー氏は日本側の協調と熱心とを以て日米兩國間の難問題なる移民問題を根本的に解決せんと企てつゝあり[illegible]之を有効に解決せん爲めに加州及日本に對し[illegible]提出して雙方の協調に盡力する所ある可しと（紐育來電）

過激派軍盛返す

新聞電報は曰く過激派軍はグロドノを奪還し波蘭軍はベルストスクを撤退しつゝありと（コツペンハーゲン來電）

大危險對應策

國際聯盟總會に對する波蘭代表ハデンウスキー氏は巴里に到着して曰く波蘭及リスアニヤの國境防備は戰略上より考察し全然新なる様式に依る擁護式を採用するに至る可し右は露獨兩軍の連絡したる際の一大危險に對する應急策なり（巴里來電）

獨愈々武裝解除

スパー會議の協調に從つて伯林市内の區域に武裝解除の布告文貼附せられたり同武裝解除は九月十五日より十一月一日迄の間に實施せらるべきものにして小銃一挺を提出する者は百馬克を交附せらるべしとされ提出せられし銃器は全部破壞せらるゝこととなり居れり尚ほ武器提出命令に違反する者は嚴罰に處せられ禁錮刑及び罰金三十萬馬克迄の罰金とを課せらるべし（倫敦來電）

支那對ウ政府協商

ウェルフネ政府代表者ユーリン氏は非公式に外交當局と通商上に關して交渉中なるが支那側の消息に依れば露支協約を適用せず本年四月新疆將軍と露西亞代表との間に締結せられたる通商條約締結せらるゝ迄是れに準據して通商を許すこととなるべし（北京來電）

ウ政府代表聲明

緩衝國問題進捗乎

ウェルフネウジンスクに滯在せる井染大佐の使命は日露貿易關係及日本の要求せんとする○○問題に關する意見を交換せんが爲なりとの風説行はる松平政務部長とウェルフネ政府外交代表者サトウ氏との會見は全く秘密裡に行はれ會見の結果は相互の承諾を俟つて發表さるべしと云ふ而して一般の風説に依れば會議は極東緩衝國問題に觸れたること明かなりと又ウェルフネ政府代表サトウ氏は新聞記者に語つて曰く會見の結果に就ては近く發表すべき機會あるべきも吾人は極東に於ける日本の特殊地位を認めんとするは明かなり吾人は日本も亦極東に於て平和狀態の回復を希望せる旨を諒解し而して極東問題を解決せんが爲め殊に極東の統一と日本軍撤退の二項を緊要の條件となし日本軍の撤退は極東の平和を促進し從つて日露の貿易狀態を改善する爲に即刻實行せらるべきものなりと云へり西伯利に於ける平和狀態の回復は優に八萬の兵數を減じ是れを生産的事業に差向くるにあり而して創設せられたる緩衝國の外交政策は門戶開放機會均等主義に依らざるべからず吾人は露國領土内全部が大陸なると小島なることを問はず何れの國にも是れを割讓することを拒否せんと欲す（浦鹽來電）

浦鹽政府財政困難

浦鹽に於ける新紙幣の價値甚だ低下したる爲め浦鹽政府の經常費は莫大なる膨脹を來し發行紙幣一億五千萬留は既に消費し盡されし經濟界は是れが救濟策として更に紙幣を發行するか或は低落したる市價を以て紙幣を買占めんことを提案し居れりと傳ふる所に依れば支那は銀貨を以て市場に於て新紙幣を買收せんとする運動あるものゝ如く目下貨幣價の昂騰を見んとしつゝある現象は明かに此風說に基因するものなりと（浦鹽來電）

浦港無秩序狀態

[illegible]（浦鹽來電）

ラフト殺害確實さる

ウェルフネ政府軍事代表委員長は日本軍參謀と會見し[illegible]（浦鹽來電）

廣東軍各地占領

廣東軍側の[illegible]に依れば[illegible]廣東軍の手に歸したりと（廣東來電）

北京新國家

三十日新國會[illegible]（北京來電）

吳佩孚氏任命

[illegible]

所謂墓地規則に就て

大塚參事官談

近頃墓地規則の改正に就て種々議論を生ずるに至り[illegible]

所謂風水

[illegible]

偏見謬妄

[illegible]

其の地方

の死體を埋葬せしむることを原則とし特別の事情あるものに限り單獨又は一族若くは合族の墓地を設置することを許す規定であつたが此の特別の事情と云ふことは極めて嚴格に解釋せられ貴族又は地方の名族にして國家に功勞ある者に限定せられて居たから原則として墓地は共同墓地以外に認められなかつたと謂ふても宜しいのであつた由來朝鮮に於ては祖先を崇拜し長上を敬慕する美風があり從つて祖先の墳墓を尊重するは非常なものであつて其の念慮の凝結する所遂に各種の[illegible]

一意弊害

を除くに[illegible]

社會事情

に適切なるものでなければならないと云ふのが眞理であつて社會の事情を顧みない制度は如何に善美なものであつても之が實効を期することは出來ないのである

釜山の大港灣設備

八千萬圓の設計はあるが財源がない

佐々木慶南知事談

慶尚南道知事佐々木藤太郎氏は目下京城天眞樓旅館に滯在中なるが往訪の記者に語りて曰く

釜山港の港灣設備論の如きは大釜山としての欲望[illegible]

現在設計案

[illegible]

或る方面で

[illegible]

鮮人行動の眞相（下）

米國議員團來鮮の際に於ける

日本の寬容

[illegible]

國際親和會

[illegible]

青年會館に

[illegible]

號外を發刊

[illegible]

虛說を流布

[illegible]

經過を觀察

[illegible]

平北道廳移轉說

水野政務總監も贊意の趣

飯尾平北道知事談

[illegible]

不逞鮮人取締

[illegible]

新義州に移轉

[illegible]

知事を訪へば

[illegible]

泡沫會社

鐵板石材の履違へ

朝鮮スレート（二）

鐵砲玉の益永氏

發掘地

[illegible]

發起人

[illegible]

出資し

[illegible]

叩儀も

[illegible]

米國へ

[illegible]

親の仇

[illegible]

辭令

[illegible]

道知事宿所

[illegible]

道官房主事會

[illegible]

水野政務總監

[illegible]

總督官邸晩餐會

[illegible]

松尾氏京日退社

[illegible]

仁川專修校地鎭祭

[illegible]

山縣長官歸期

[illegible]

警保局長招待會

[illegible]

本紙發賣禁止

[illegible]

人事

[illegible]

東部警察會陳情

[illegible]

風塵錄

▲波蘭避難民百五十名は三日長春を乘車し五日朝南行すべしと

▲各道知事の會合は一日から四日迄總督府内に於て開催されて居る、本年は珍らしく[illegible]

▲東京に於ける日鮮融和の爲め[illegible]

株式界

[illegible]

二日算定値段

[illegible]

京株市場出來値（二日）

銘柄	前場	後場
[illegible]	[illegible]	[illegible]

出來高

二日前場 合計 六〇〇株
累計 二萬一千六百九拾株

仁川期米特電

九月二日前場

[illegible]

九月二日後場

[illegible]

東京期米特電

九月二日前場

[illegible]

大阪期米特電

九月二日前場

[illegible]

九月二日後場

[illegible]

十三道知事の見たる十三道の不逞鮮人 （一）

第二の李堈公事件

なんでもやる咸北の不逞漢

中露聯合宣戰部の大飛躍やら

露の過激派と相結んだ「聯通制」の大檢擧

山本旅館にて 上林咸鏡北道知事は語る

全鮮に於ける不逞鮮人の跳梁は一昨年以來益々瀰漫し來りこれが警戒取締には各地方長官の苦心は一方ならざるものあり之れに就き目下出城滯在中なる各道知事を訪問して其の所管地方に於ける不逞鮮人の過去現在及將來に對する意見を聽くを得たり依つて左に之れを紹介すべし。

咸鏡北道知事

上林慶次郎氏は旅館山本に於て語つて曰く「各道中に於いて最も不逞鮮人の陰謀策源とすべきは余の所管する咸鏡北道なるが他道の不逞漢と異りて軍隊的行動を取り堂々と隊伍を組みて横行濶歩をなすを以て顯性的にして陰性的なる暗殺行爲などは絶對になさず而して本道

不逞漢の系統

は又他と異りて一は日露戰争當時の不平黨が中央を離れて間島の地に來りゐたるものゝ結束あり他の一つは露領沿海洲方面の過激派と聯絡を有する者が入り込めるものなるが彼等は西伯利に於て日本軍がチエツク軍に讓り渡したる日本武

米國製最新式

器を購ひ所持し或ひは器を帶べるありこは米軍が西伯利撤退の際に於て賣却せるものを手に入れたるものなり而して過激派と聯絡を取りて咸北へ侵入する鮮人はニコリスク方面より琿春を經て國境の嚴重なる警備を突破し圖們江の流域を越へ來るものなるが同流域には最も嚴重なる警戒をなし

何樣六郡に亙る

居るも延長の沿岸は如何なる所に於ても渡渉さるゝをもつて三人五人宛潜入する場合は殆ど判明せず然も最近彼等は渡河の際は腰に浮袋を附けて隨意に隨するなど巧に智慧を絞るを以て手に終へざる次第な

武官學校など

り尚ほ本道に徘徊する不逞團は特校より兵卒に至る訓練と兵式を有するものあり更に上海に於ける一派と結合して「聯通制」なるものを計劃し大規模なる團體となすべく計劃しゐたるが之れを探知して逮捕七十餘名に及べり其內には郡參事或は郡書記等もありたるが幸に事を未前に防止し得たり又北滿西伯利に於ける中露聯合宣戰部と稱する者と聯絡を取りたる

大陰謀を企て

ありて二の李堈公事件を惹起せんとし永幸等を誘拐せんと試みたるものありしが幸にして之れを發見し

耶蘇教徒より成る

秘密結社大韓國民會檢擧

全鮮一齊に路上痛哭の示威運動を計劃

上海同志と氣脈を通じ不逞新聞を發行

極端なる排日思志を鼓吹して居た

九月二日 ＝警務局發表＝

平壤崇實中學校及平安南道各郡の耶蘇教會學校職員等は主として宣教師の經營に係る神學校、光成、崇德の兩學校、耶蘇教會書院及教會堂等の密室に於て長老派全鮮總會牧師長老會等の教徒の會合の機を利用して行はれたるこ

廣く民間

に頒布せしめたるのみならず、全鮮長老派總會開會中朴承明、平安北道龍川牧師宋炳祚、尹宗楨及金興龍の四名は騷擾事件に際し檢擧處分せられたる同胞を慰藉し且民心を警醒する手段として十一月七日を期し全鮮一齊に路上に出て痛哭し一種の示威運動を爲すべく計畫し其の趣旨書約三百枚を私立光成學校にて印刷し之を長老總會に出席中の信徒及平壤市內に配布せしが當時官憲に於て逸早く之を探知し嚴重警戒に努めたる結果遂に

治鮮政策

に對し激越なる出版を弄して攻撃中傷し極端なる排日思想を鼓吹し以て民心を煽動し獨立運動の宣傳教唆に努め

普く名聲

を知られたる被告朴承明は耶蘇教徒として明瞭するに至れり左に其の顛末を叙すべし

思想濃厚

なる前記

十月中旬

間隙を與

へざりしも

八十六名

を檢擧し次

煽動誇張

せしめ義捐金を醵集し之を留保し上海假政府に

蒙古產業

大巴林の牧畜

天鬼將軍の

東蒙古に於ける唯一の邦人大事業たる蒙古產業公司の事業進捗狀況に對して大巴林より鄭家屯へ歸來せる同公司理事渡邊守次氏語りて曰く「大巴林には目下邦人十七八名

一大牧場

を設けつゝあり居住し同地東方に

紛糾問題

も惹起せらるゝ

日本雜貨

一群を單

位として買入れつゝあり牛は月方に依りて買入るゝものなるが一斤十七八錢見當を以てし斤量を單位として買ひ入れ當なり目下着々事業も進捗しつゝあるが大巴林附近に於ける邦人事業は將來益々有望化しつゝあるは邦家の爲め慶幸とする所なり云々（鄭家屯支局）

警備警察官の

列車生活

浦鹽避難民の住宅難に困る

浦鹽よりハルビンに來れる一旅客の談に依れば過般來知多滿洲里方面より引揚げ來れる日本人三百餘名は何れも貨物列車を改造したるが如き暗階なる列車にて浦鹽驛に乘り入れたるも浦鹽は住宅難に至るも依然浦鹽驛構內に停車せる列車內に起居して車中自炊生活を

全燒

貨車廿六輛

大阪驛の椿事

損害七百萬圓

（大阪特電）二日午前三時大阪驛構內の上屋倉庫を燒き拂ひ五時半鎭火せり同所

日本村「大來屯」

邦人が名付けた

大來農場附近の繁榮

水田經營

上海僭稱政府の犬

鮮人刑事免職さる

詐僞的手段で二萬八千圓を貪り

其金で高利貸をし

金七千圓を不逞運動費に提供

大邱署高等刑事巡査部長朴俊永は去月二十九日附を以て突然免職を命ぜられたる事實あり其內容

府內虎疫

郡部も小康

累計九百五十三

一日の京城コレラは東大門署管內

不景氣の祟りか

藝者や妓生

休業が殖えた

六七百石

の秋の收穫には

最初の名

猫（六）

品家の
子飼藝者
若菊

昔日の「不目」が
今日は立派な藝者

基督教講演會

御注意

勞働者としての京城の女 （七）

炊き觸り女事務員

輕便女房とするには第一等

事務勞働の能率は男子以上

男は女房の湯卷を洗へ

喋を

樣々

に限るものぢや、昔

共稼

と云ふ所である、ソ

吹聽

をするつもりでなか

閣下

運がよろこんで、仕

男子

以上に上つて來るに

可愛

くて智慧があつて品

銀行

の女事務員

限る

旭扇會の演奏會

十美人投票第五回開票

形勢觀望の持久戰

朝駒多美三の優勢

侵略主義のぽん太

侮る可らざる幸四郎眞二

十美人投票 第五回開票

九月二日正午迄

二九票	京	仲駒朝
二四票		いちよう多美三
二二票	中	新花月吉奴
一八票	中	花本菊千代
一六票	新	辰中ぽん太
一〇票	京	千登世一龍
一〇票	京	花柳伊達清
九一票	新	紅家華蝶
八八票	中	花月波奈奴
八〇票	中	菊水萬龍
七八票	京	芳本來

以下略

五十錢の僞造紙幣

煙草から足がつく

僞造

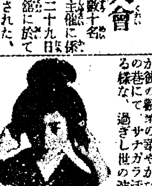
逐一

權僞

西鮮圍碁大會

盛況を極めし

落籍



小よね裙の告白

さるでま

正誤

封筒の三十圓

本社電話番號

編輯用 三、三一八番

營業用 二、六三三番

小栗判官 照手姫 (六十一)

旭亭 櫻山 口演

小次郎の業病平癒

小屋の内に段が三ツ出來て居て、其れへ阿彌陀樣が祭られ、觀音樣の厳へ助衛を下して、與の一照手が附添ひながら、遊行上人をつかへて居りますと、遊んで兩手をオラ念珠を上げまして、遊「南無阿彌陀佛」一同其言葉に從ひて、一同「南無阿彌陀佛」遊「南無阿彌陀佛」一同「南無阿彌陀佛」と唱へ上げた事を以て十度、其れより上人が一場の説教を致されたから、一同照手の涙を流して拜聽する中に、照手のみは頭を上げて控へて居りましたが、やがて上人は其席を立ち去らうといたしますから堪まり兼ねて法衣の袖をヒタと押さへ、照「御上人樣しばらくお待ちを願ひます」遊「ア、何か用事か」照「御懷かしさの

の姫主佐竹殿の娘照手、[illegible]しさの餘り言葉を掛けましてございます」又傍に控へました小栗を指して「是れは助重と私の間に出來ました夫、どうぞ御見知り下さりませ」と聞くより上人夫かと計り聞いて、段々と小次郎を打眺め 遊「扨ては助重であつたか」何うも此の遊行が判るか一任合せと此時は[illegible]に向つて居りましたから、上人の言葉を聞いて口元に笑ひを見せ、首をコクリ／＼下げて居ります、遊「扨は東光坊、面目次第もござらんが、是れは手前俗縁の甥に相違ない」東「左樣でございますか」と東光坊も其の奇遇を不思議に思ひ、一同の者も之を聞いて、一頻れにも上人を彼れ是れと噂したのを



餘り、御法衣の袖に縋りましてございます」將合した坊さん達も病人達も之を見て驚いた○「藤澤の遊行上人は活佛などと言ふが的にならない、鎌倉邊りで彼の女が茶屋の娘さんでもして居た時分、何愛がりでもしたんぢやアないか」△「然うかも知れない、法衣の袖を捉へてお懷しいなんてえ處を見ると、此奴只の代物ぢやアないよ」なんかと樣々の噂を始めた、遊行上人殿を正して 遊「女性私は御身を知らん」照「イエ私の方で見覺を能く存じて居ります、私は鎌倉權現堂前の丸屋方に居りました照手と申す者でございます、又此れに居りまする病人は、これこそ世俗御存でございませう」遊「ムーム見るは始めてだが…」照「世俗の甥でございます」遊「是れはしたり何にを云ふ、私は佛に仕へる者、甥といふ者もなければ、伯父といはれる者もない」照「イエ俗世の甥、世俗は俗縁の伯父御でございます、實は常陸國小栗兵衛尉の一子小次郎助重、私は同國太田

居りました、其間にも遊行上人の訊ねに答へて、照手は權現堂出火以來の事、小次郎の病氣擁治の爲め當山へ來たまでの次第を悉く物語りますと、上人は聞いて涙を流し 遊「扨は左樣迄に苦勞艱難致したか、かへる上は老僧も暫し當山に滯在して、此の助重の病氣全快の祈願をかけて遣はさう、良人の爲めとは申し、能く今日まで夫れまでに勤めて呉れた、是れより後も一層勵んで良人の爲めに修行至すがよからう、迷惑ながら東光坊老僧も暫らく當山の厄介と相成りたい」と是れから遊行上人、權現の前に於て、晝となく夜となく、手燈を點て荒行に掛りました、今日から見まするると、甚だ野蠻のやうでございますが、手燈と申すは左の掌に油を注いで、燈心を置きそれへ火を點じるのでございますから何の事はない、左の掌は燈明皿になるやうなもの、當今でも神道の行者などに此手燈を點く者がございますが、是れが出來るやうになるのは却々容易の事では

ございます、遊行上人が[illegible]如き荒行をして[illegible]其身を犠牲として[illegible]あつて[illegible]元の[illegible]に復りました